

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第 137 号

2013年 1月 1日発行

発行責任者：横井正人

編集：機関紙局

特定非営利活動法人 民族歌舞団 こぶし座

北海道函館市陣川町 122-172

TEL:0138-54-2859 FAX:0138-84-8207

年 2 回発行

E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp

http://www18.ocn.ne.jp/~kobusiza/

主な内容

- (1) 新年のごあいさつ
- (2) 寄稿
「アイヌ文化を残す為に」
- (3) 公演を取り組んで
- (4) 寄せられた感想から

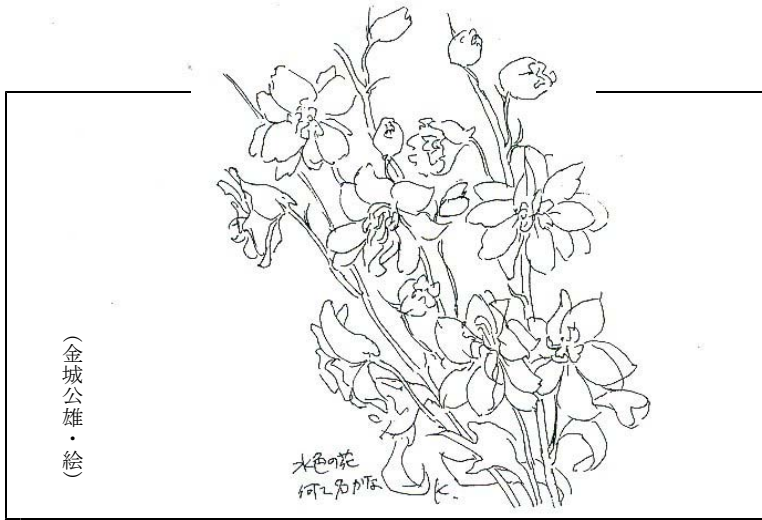
謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い致します

二〇一三年 元旦

特定非営利活動法人(NPO法人)

民族歌舞団こぶし座社員一同



(金城公雄・絵)

理事長 横井正人 (座員)
 理事 中尾雄児 (座員)
 理事 計良 徹 (座員)
 監事 金城公雄
 計良正子 (座員)
 横井ひとみ (座員)
 松岡智恵美 (座員)
 村田さつき (座員)
 岩島 司
 岡部幸人
 梶原康男
 西東英範
 志賀松 晋
 志賀松智恵美
 橋本かおり
 古川喜美子
 三浦恒雄
 三浦芙美子

新年のごあいさつ

理事長 横井正人

新年あけましておめでとございます。

皆さんから賜りました数々のご支援に心からお礼申し上げます。

お陰様で座員一同、皆元気に新しい年を迎えることができました。

東日本震災からまもなく二年が経ちます。未だ先の見通しがたないまま、ご苦労されている皆さんのことを思うと、早い復興を願う気持ちと同時に、まだまだ長い時間が掛かることを強く感じています。

昨年は『被災地へのエールと北海道の元気を』創ることをめざして公演を行ってきました。

各公演地での実行委員、協力者の皆さんの被災地への想いは、自分たちの住む地域を見つめ直すことにも繋がり、『人と人との絆や、地域に元気を創りたい』と取り組んで下さいました。

各地でお力添え下さった皆さん本当にありがとうございます。私たちも公演を通してたくさん元気を頂きました。

さて、暮れに行われた総選挙は、政党・政治への不信から、五九・三二%という戦後最低の投票率でした。さらに、少ない得票で議席を獲得するという、多くの国民の意志が反映されない結果となり、三年前に国政の変革を期待された政権は、国民の信頼を失い替わらざるを得ませんでした。

三年前、大勢の人が願った変革を今後実現するためには、一人一人が意志を強く持ち、子ども達の未来のために、行動することが求められているのではないのでしょうか。

こぶし座も民族芸能を通して北海道の皆さんと心結び、共に明日への希望を生み出して行きたいと思えます。

皆さんのいっそうのご支援を心よりお願い申し上げます、新年のごあいさつと致します。

寄稿 "アイヌ文化を 残す為に"

「イランカラプテ」アイヌ語で「こんにちわ」とか「はじめまして」とか「ごきげんよう」とか、あいさつによく使用する言葉です。直訳しますと「あなたの心にそっと触れさせて下さい」という意味です。

北海道では地名も含め、様々なアイヌ語が使われているのですが、それを感じている人は少ないような気がします。

私は常々、アイヌ文化は日本の財産であり北海道の財産でもあると言いつづけております。

それを出来る限り残してゆくのが我々アイヌ民族の使命であると思っています。

文化ばかりではなく伝統や習慣、そして何よりも言葉、アイヌ語を残してゆかなければならないのです。

私は2008年に函館に引越して来ました。

2008年(平成20年)という年は、我々アイヌ民族が日本の先住民族であると国会で初めて承認された年でもありました。

私も函館でアイヌ協会に入会しようと思つて来たのですが、函館で支部がありませんでした。私は支部がないのであれば作るうと思ひ立ち、函館に居住するアイヌに声をかけ、2010年5月に(社)北海道アイヌ協会函館支部を設立しました。

こぶし座さんの事を知っているウタリに聞いてみました。それはそれは評判が良く、アイヌの心を持ったシサム達だという事でした。

私はアイヌ文化の伝承、保存活動、またそれを利用した自然保護、地元地域住民との交流、観光行事への積極的参加等を通じ、アイヌ自身の自立と地域の人達の共生をめざしております。

そこにはアイヌだけの力では到底無理な事なのです。シサムの人達の力を得てこそ、自然との共生、人間どうしの共生が果たせると思っています。そうする事によって、アイヌの文化、伝承、言葉が自然と残つてゆくと思つてます。

活動をしたいがい、ふつと横を見ると函館でアイヌではないけど、アイヌの文化を一生懸命繋いでくれている人達がいる事に気が付きました。

こぶし座の皆さんでした。心の中は「あれ？まあ！」という驚きの感じでした。

2012年11月18日、函館でこぶし座の皆さんも参加して頂き、「アイヌ文化交流の集い函館」を開催致しました。

函館でアイヌとシサムの人達とでアイヌ文化を発信するのは初めてではないかと思ひます。

大勢の人達が来場して頂き、こぶし座の皆さんもムツクリの演奏をし、会場の人達も参加をして楽しい一時を過ごしました。

そして舞踊はどうだろうか、ムツクリはどうかなど、

2012年11月18日、函館でこぶし座の皆さんも参加して頂き、「アイヌ文化交流の集い函館」を開催致しました。

支部長 加藤敬人

昨年十一月、アイヌ協会函館支部長加藤氏からの依頼を受けて、「アイヌ文化交流の集い函館・イランカラプテ」に参加させて頂いた。

函館の地に：アイヌ文化の伝承と普及、民族の自立と地域社会との共生をめざす：支部長の熱い想いの詰まった種が蒔かれました。

こぶし座の皆さんもムツクリの演奏をし、会場の人達も参加をして楽しい一時を過ごしました。

今年もどうか参加をして頂きたいと思ひます。

最後に、こぶし座さんの益々の活躍と健康を祈念して、新年の寄稿とさせて頂きました。

「アイヌ文化交流の集い函館」に参加して

く瞳は美しい鳥を追い求めていきます。子ども達も参加しての楽しいチロンヌプリムセ(狐の踊り)、不思議な迫力で迫ってくるムツクリの響き、そして八十七歳のフチが語る優しく美しいユカラ、日本語に通訳してくれるお孫さんの誇りに満ちた笑顔が胸を打ちます。

公演部・計良正子

「現在、市内大手町のベイエリアで、カフェディングJEOを夫人と経営。」

「昨年十一月には、仲間たちとNPO法人「マウコピリカの会」を設立し、理事長を務める。」

「アイヌ文化の集い函館」に参加して

こぶし座も微力ながらその一端を担い、美しい花を咲かせたいと願っています。



挨拶する加藤支部長



来場者とのムツクリ体験コーナー

アイヌ文化交流の集い函館
「イランカラプテ」
に参加して

舞踊リムセの会」：むかわ・白老・札幌に居住している未就学児から高齢のフチ(お婆さん)まで十七名を擁する会。「ピリカモシリプロジェクト・ReRa」：オリジナルアイヌミュージックを歌い奏でる三人のグループ。こぶし座の三団体。

司会を交えながら進められる数々の演目に目を奪われながら、アイヌコタンの人間模様が写し出されているよう心が温かくなりました。

演奏のトップバッターを担った私たちは、トンコリとムツクリの演奏の後、来場者のみなさんにムツクリ(竹で作られた口琴)を鳴らして貰う体験コーナーを担当した。

最後はReRaのみなさんの熱唱で盛り上がり、「リムセの会」のリードで、観客のみなさんと一緒に大きな輪を作り、ホリッパ(輪踊り)を楽しみました。

遠隔地から駆けつけた「リムセの会」の演奏は多彩で、ウポポ(座り歌)・リムセ(舞踊)・イフンケ(子守歌)・ユカラ(英雄叙事詩)・ムツクリなどを約一時間に渡って披露してくださった。

こぶし座も微力ながらその一端を担い、美しい花を咲かせたいと願っています。

【経歴】
昭29 札幌市で生まれる
昭33 日高門別町幾千世
アイヌコタンで育つ
昭53 大阪市の証券会社勤務
平3 中国上海市にて
貿易会社を営む
平13 小樽市に移住
ロシア貿易に進出
小樽市での事業を
一切やめ函館に移住
本格的にアイヌの活動に
参加する。

公演部・計良正子

アイヌ文化の集い函館
「イランカラプテ」
に参加して

こぶし座も微力ながらその一端を担い、美しい花を咲かせたいと願っています。

アイヌ文化の集い函館
「イランカラプテ」
に参加して

こぶし座も微力ながらその一端を担い、美しい花を咲かせたいと願っています。



開場前の観客のみなさん
…実行委員にも笑みがこぼれる

昨年の後半期(秋・冬)に行われた一般公演は、9月・10月の単独公演、そして11月からの巡業公演と全道12カ所で行われました。―5市(7地域)5町特に、宗谷・網走管内での12月5日からの公演は、例年にならない大雪に見舞われるなかでの開催でした。ここでは、3年前に引き続き実施した旭川市の三地域公演から、東鷹栖地域の様子を報告します。

「こぶし座」公演を取り組んで

東鷹栖

「こぶし座」を観る会
田代美恵子

12月2日日曜日午後2時、東鷹栖公民館の公演が始まった。実行委員男性3人女性4人で開演を待った。まだリハ―サル中から人々は集まりホール入口で固まって開場を待った。何と119人の人が入場した。私は主に券を扱った人の精算をし、入場者の顔を見た。「完売だよ」「3枚だけだった」などなど券を扱ってくれた人たち、「お久しぶり」「元

3時半終了、会場からでてきた人たちは口々に「良かった」「楽しかった」と満足な顔、顔でした。アンケートと募金にその評価がしっかりとあらわれた。アンケートは92人が応えてくれた。10代から70代まで、「また来てほしい」「懐かしかった」「さすがプロ、すばらしい」「団員は何人ですか」の質問もあった。募金も子供から高齢者のみなさんから集まった。なんとも温かい人々が観に来てくれたと思った。

12月2日日曜日午後2時、東鷹栖公民館の公演が始まった。実行委員男性3人女性4人で開演を待った。まだリハ―サル中から人々は集まりホール入口で固まって開場を待った。何と119人の人が入場した。私は主に券を扱った人の精算をし、入場者の顔を見た。「完売だよ」「3枚だけだった」などなど券を扱ってくれた人たち、「お久しぶり」「元

実行委員が団員との交流会、お金がないからといって、ぎりぎりの夕食と会場を用意

してくれた。思い思いを語ってくれた。東鷹栖の町場、松平町内という地域が今もある。越中富山から三〇〇戸の家族を呼び寄せ開拓した歴史があり、今も越中盆踊り保存会が活躍している。

そんな農業風景が「こぶし座」によって原風景、30数年内でのお年寄りの会話は「そうだ、そうだ、あんなだった」と楽しく話していたという。

金銭的には絶対成功しないといったジレンマスはどうだったかは別にして、実行委員の7人は5枚10枚20枚を超えて一人一人に声をかけて広げ、そのほか総勢20数人が売り手になって広げてくれた。

実行委員長にとお願いしていた文団協の会長さんは東鷹栖の文化祭で「こぶし座」の訴えをしていいよと声をかけてくれた。400人は集まるよと。昼休みの時間に「こぶし座」の取り組みについて訴えた。それは売り手になっている人

も文化祭に参加していて、元気が出たようだ。あと1枚、あと1枚と広がって行った。また、何よりも「TTP」反対を表明している「たいせつ農協」が後援してくれた。

私は、夫の転勤で農村に定住して農業と農民感情を30数年前から見てきたがこの地域で子育て、夫の両親との家族づくり、人との繋がりも点から線そして面に広がっていた。今回のとりくみがさらにそのことが強く深まってきたと思う。それは「こぶし座」の磨かれた民族芸能とおして100人を超える人々と共有できたこと。「また、来てほしい」の声にどう応えていくのか宿題だ。

突然の総選挙、未来日本がどうなるのか「歴史的選挙」と言われた。地域や農業、人々がこれからどうなっていくのかしつかりと見ずえて行きたいと思う。

5月から6ヶ月間の取り組み本当に良かった。

メンバーの半数が農業を営んでいる

【1月～3月の公演計画】(予定含む)

＜特別公演＞

- 1月 2日(水) 棒二森屋/新春開店イベント
- 2日(水) ポールスター/お正月イベント
- 10日(木) 鹿部町/高齢者対象公演

＜幼稚園保育園公演＞

- 1月 11日(金) つぐみ保育園
- 17日(木) つくしの子保育園
- 18日(金) 青い鳥保育園
- 2月 4日(月) 札幌/大谷第二幼稚園・オアシス保育園
- 5日(火) 札幌/澄川保育所
- 5日(火) 札幌/弘済会札幌保育所
- 6日(水) 札幌/柏葉保育園
- 6日(水) 札幌/北の星白石保育園
- 7日(木) 札幌/菊水上町保育園
- 8日(金) 札幌/東川下ポッポ保育園
- 8日(金) 札幌/風の子保育園
- 18日(月) 八雲/国の子保育園
- 19日(火) 札幌/札幌円山幼稚園
- 20日(水) 札幌/桑園保育所
- 21日(木) 札幌/しせいかん保育園
- 3月 14日(木) 神山保育園
- 16日(土) 北見/南保育園 閉園記念事業

＜一般公演＞

- 2月 24日(日) 富良野市
- 3月 2日(月) 岩見沢市
- 10日(日) 長万部町
- 11日(月) せたな町
- 13日(水) 函館市戸井地区



メンバーの半数が農業を営んでいる

各地の公演会場で
寄せられた感想から

・初めてこぶし座の公演を見て楽しい所と感動する所が沢山あって、来て良かったです。遠い所から枝幸まで来ていただいてありがとうございます！そして、学校もより頑張ろうと思いました。これからも、こぶし座を続けて行けるよう応援しています！

・普段なかなか見ることが出来ない伝統芸能を間近で接することが出来、子供と一緒に楽しむことができました。
〈高校生 女子〉

・しの笛ステキ、手踊りが美しい、四人だけど華やかで賑やかでした。笑顔がステキ！少し落ち込んでいましたが、明るい気持ちになりました。ありがとうございます。
〈六十代 女性〉

・踊り手さんの笑顔がとてもステキでした。現代社会の問題点にもチョッピリ触れられていてgood！
四人なのに迫力がありました！
〈六十代 女性〉



旭川市永山…「豊年こいこい」より

・昔の農業の苦勞はたくさん話を聞いていますが、その中でたくさん喜びを見いだしながら生活していた様子が公演の中でよく感じられました。観客席で、「懐かしい」といつている方がいて、何か胸が熱くなりました。三味線をもっと聞きたかったです。
〈四十代 女性〉

・演じる皆さんの笑顔がすばらしかったです。豊年こいこいは、子供の頃を思い出させることを思い出しました。田植えをした事、稲刈りをしたこと等々。今日はトクした気分です。
〈六十代 女性〉



篠笛演奏「津軽山唄」

・懐かしく、シンプルで「芸能」という言葉が、土ともにあるように思えた。
〈五十代 男性〉

・日本の心、ありがとうございます。
〈七十代 男性〉



枝幸町での送り出し

旭川市の老人施設にて



北見市留辺蘂…地元有志と「江差のもちつきばやし」

訃報

國田寿子さん逝く
元座員(創立メンバー)

昨年の5月頃より体調を崩して入院していましたが、10月9日、七十九年の人生を静かにとじられました。

創立メンバーの一人として夫・修司氏(前代表)と共に、座の基礎を築き上げました。あらゆる事柄に愛情を込めて真摯に向き合う姿勢に学ばされた座員は数多く、母親のような存在でした。

座員一同、悲しみに沈まず前を向いて歩き続けます。

尚、葬儀は家族葬にて執りおこなわれました。

寿子さんを悼み、元座員・数馬一夫さんからのお手紙と、國田修司さんの想いが寄せられていますので、ご紹介いたします。

寿子さん、長い間ご苦勞様でした。あなたが居てくれたお陰で、いつも座の中には温かいやわらかな風が吹いていたように思いますが、きょう座員はみんな自分の子くらいに思ってくれてたのでしょうね。

僕が入座したのは、もう40年前になりますね。上ノ国の中須田にこぶし座が根をおろして7年目でした。僕は公演班として、道東・道北・利尻まで行った矢白別盆踊り等、生まれて初めての経験ばかりでした。座に居る時は、卵売りや隣の集落までおがくずをもらいに行きましたね。田植えの手伝いもみんなやりましたし、何をやっても本来保守的なはずの農家の母さん方は温かい目で見えてくれて、おしる応援してくれました。「地域に根付くまで大変だったんだよ」と寿子さん言ってたけど、あなたの人柄や笑顔が信用され信頼に繋がったと聞いてます。

その後、二年ほどで退座し東京の生活が人生の半分以上に変わってしまいました。わずか二年しか座に居ませんでした。東京の会社員生活は違う意味で厳しいものですが、醜いもの汚いものを見慣れた目でこぶし座の皆さんを見ると、いつもいつも光り輝いています。中に居た時は感じなかったのですが、外から見ると本当に一人ひとり輝いてます。こぶし座の精神でしょうか。人として大事な品格を高め合いつつながら民族芸能に携わっているからでしょうか。よくわかりませんが、人として大切なものがこぶし座には間違いなくあります。退座して40年、ずーっとクニさん寿子さんはじめ座と連絡してたのは、そんなみんなと離れたくないという想いなんです。どう生きるべきかを教えてくれた寿子さん、ゆっくりゆっくり休んで下さいね。

東京・チョイ(数馬一夫)
現座員たちの児童的存在である。

退座してから既に12年。多くの方々との疎遠になったと思っておりましたのに、彼女を悼むたくさんのお心遣いが寄せられ、あらためて偲ぶよすがとしております。

座の仕事で彼女が一番力を入れたのは「後援会づくり」でした。さまざまな困難に会うたび「頑張ってみよう！力を合わせれば何とかかなるよ！」とみんなを励まし続けたのも、なんら根拠のないカラ元気ではなく、こちらが必死になれば後援会員や支持して下さる皆さんがたから、必ず大きなご支援が寄せられることを心から信じていたからです。今、座も厳しい状況にあります。しかし、ここが踏んばりどころ。「その灯を消すな！」のご支援の声の中に、妻・寿子の声も加わっていくに違いありませんーいつまでも。